

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	遠藤 晃							ICT活 用	○	
授業概要	<p>専門ゼミⅠで習得したフィールドワークによる調査・研究手法をもとにして4年次に取り組む卒業研究において、必要となるテーマに関する基礎的文献を各自紹介する。論文から専門知識を深めるとともに、論文の構成、統計的手法についても習得することを目指す。</p>									
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠ、入門ゼミ、プレゼミ、卒業研究									
授業の方法と進め方	テーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第1回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第2回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第3回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第4回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第5回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第6回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第7回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第8回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第9回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第10回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画【第11回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									

授業計画 【第12回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。
授業計画 【第13回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。
授業計画 【第14回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。
授業計画 【第15回】	論文紹介：担当者がテーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。
授業の到達目標	専門ゼミ I で習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指す。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	担当する論文を探し、読み込んでレジメを作る。その際、ゼミ生と議論したいポイントを示すこと。
授業時間外の学習 【復習】	ゼミでの議論を振り返り、論文への理解をブラッシュアップする。
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説する。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。
テキスト	とくに定めず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員		アクティブラーニング	○	
担当教員名	藤本 朋美							ICT活用	○	
授業概要	<p>この授業の目的は、自身の関心や問題意識から卒業研究テーマを設定し、卒業研究を行うための方法を習得することです。</p> <p>①これまで学んできた専門的知識やボランティア活動等で得た経験をもとに、特に幼児や児童のことばや文字、伝え合うこと等にかかわる研究テーマを設定し、②先行研究の収集・整理と分析、③レジュメ作成、④発表・質疑応答を通して、研究テーマに関する知見を深め、研究方法について学びます。最終的には自身の主張を論文にまとめます。</p>									
関連する科目	<p>事前に「子ども教育専門ゼミⅠ」を受講しておくこと。</p> <p>同時に「卒業研究」を受講すること。</p>									
授業の方法と進め方	<p>毎回の授業において、演習形式の授業を行います。1回の授業構成は次のとおりです。授業の前半では、各自が、課題に対する自身の考えを資料およびプレゼンテーションにより表現します。【知識・理解の獲得】後半ではグループディスカッション等にて、前半の学びを深め、さらに自身の問題意識とその立場について検討します。【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】なお、講義資料の提示・課題の提出は、ユニバのクラスプロファイル上で行います。</p>									
授業計画【第1回】	「子ども教育専門ゼミⅡ」の目的 本ゼミの目的について確認します。									
授業計画【第2回】	研究テーマの設定 自身の問題意識とその立場をもとに、資料を徹底して調べ、研究テーマを設定します。									
授業計画【第3回】	研究計画を立てる ①意見交換 論文完成までの見通しを持ち、計画を立てます。									
授業計画【第4回】	研究計画を立てる ②再検討 論文完成までの見通しを持ち、計画を立てます。									
授業計画【第5回】	先行研究の収集・整理・分析 ①概略的知識を得る 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。									
授業計画【第6回】	先行研究の収集・整理・分析 ②文献検索、入手 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。									
授業計画【第7回】	先行研究の収集・整理・分析 ③先行研究における自身のテーマの位置づけ 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。									
授業計画【第8回】	中間報告									
授業計画【第9回】	研究テーマの再検討 研究テーマと先行研究整理について報告し、ディスカッションを通して、検討します。									
授業計画【第10回】	研究アウトラインの作成 ①構造の組み立て 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。									
授業計画【第11回】	研究アウトラインの作成 ②主題文の作成 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。									

授業計画 【第12回】	研究アウトラインの作成 ③アウトラインの作成 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。
授業計画 【第13回】	研究アウトラインの作成 ④題名（仮）の設定 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。
授業計画 【第14回】	最終報告 1: 意見交換 ディスカッションを通し、自身の研究テーマの論点を再整理します。
授業計画 【第15回】	最終報告 2: まとめ ディスカッションを通し、自身の研究テーマの論点を再整理します。
授業の到達目標	1. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 2. 研究テーマを設定し、論文執筆のためのアウトラインを立てることができる。 3. レジюме作成、発表と討論の方法について理解することができる。 【知識・技能の育成】 4. 先行研究の収集と整理、調査と分析、レジюме作成、発表及び討論を通し、卒業研究の手法を習得することができる。 【汎用的技能の育成】 【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	課題に取り組むにあたって、自身の興味・関心や問題意識に関する情報や資料等を収集しまとめるようにしてください。
授業時間外の学習 【復習】	授業後には、意見交換や自身の学びを振り返り、論点を整理してください。
課題に対する フィードバック	毎回のレジюмеについては、授業時にコメントします。最終レポートについては、評価後、返却し解説します。
評価方法・基準	毎回の発表資料 50点 学習への意欲的な取り組み（発表・討論への参加状況等）50点
テキスト	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶応義塾大学出版会、2019年。（1,200円＋税）
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	演習		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	福富 隆志							ICT活 用	○
授業概要	<p>教育は、学校だけに限らず、家庭や企業などあらゆる場で行われる。したがって、大部分の人は、教職に就くか否かに関わらず、将来的に教育に携わることになる。したがって、教育に関する何らかの問題点を発見し、適切に解決できる知識やスキルは必須だと言える。そこで本ゼミでは、専門ゼミⅠに引き続いて、主に心理学的な観点から、教育に関する何らかの問題を、適切な方法で解決できる知識とスキルを学ぶことをねらいとする。そのために、前半では教育心理学に関する発展的な文献を読み、議論を通して理解を深める。後半では、個人でテーマを立て、問題を設定し、適切な方法を用いて結論を出し、考察をするという一連の研究活動を実践してもらう。</p>								
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠを前年度に、卒業研究を同年度に履修すること。								
授業の方法と進め方	<p>授業の基本的な構成は以下の通りである。
【前半】発表担当者が文献の内容のまとめと論点を提示し、それらについて全員で議論する。
【後半】個人で一連の研究活動を進め、進捗を報告してフィードバックを受け、次回の活動への見通しを立てる。</p>								
授業計画【第1回】	第1回：オリエンテーション								
授業計画【第2回】	第2回：文献発表と議論(1)								
授業計画【第3回】	第3回：文献発表と議論(2)								
授業計画【第4回】	第4回：文献発表と議論(3)								
授業計画【第5回】	第5回：文献発表と議論(4)								
授業計画【第6回】	第6回：文献発表と議論(5)								
授業計画【第7回】	第7回：文献発表と議論(6)								
授業計画【第8回】	第8回：研究テーマの決定								
授業計画【第9回】	第9回：研究計画の作成(1)：問題と目的								
授業計画【第10回】	第10回：研究計画の作成(2)：方法								
授業計画【第11回】	第11回：研究の実施(1)：データの収集								

授業計画 【第12回】	第12回：研究の実施(2)：データの分析
授業計画 【第13回】	第13回：研究の実施(3)：結果のまとめ
授業計画 【第14回】	第14回：研究の実施(4)：考察
授業計画 【第15回】	第15回：研究成果の発表
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学に関する文献の内容を、他者にもわかるようにまとめ、発表できる。 2. 教育心理学に関する文献の内容について、実社会と関連した論点を提示できる。 3. 議論を通じて、教育心理学についての理解を深め、実社会との関連を論じられる。 4. 教育に関連する事象について、適切な構成（問題と目的、方法、結果、考察）の研究成果を発表できる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	指定した文献から次回の発表範囲を事前に熟読し、次回の発表内容の概略を把握すると同時に、授業で必要となる資料作成を行うこと（1.5時間）
授業時間外の学習 【復習】	授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること（1時間）、また授業終了時に示す課題に取り組み、必要な資料作成を行ったり、授業中に議論した内容に関して自分なりの考えをまとめておくこと（1.5時間）
課題に対する フィードバック	毎回の提出課題（発表資料など）は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	発表やレポートの質、議論への参加の程度から総合的に判断する。 ①発表、レポート：80% ②議論への参加：20%
テキスト	初回の授業で指示をする。
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	講義			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○		
担当教員名	本田 和也								ICT活 用		
授業概要	<p>本授業は、特別支援教育・保育を専門的に研究していくための発展的な力を養うことを目的とする。 文献や資料の収集や整理などを通して、情報活用方法を学んだ上、十分に活用する力を養う。 学生自ら設定した研究テーマに沿い、調査および研究を進めることで探求する力を養い、まとめる力を育む。</p>										
関連する科目	事前に、子ども教育専門ゼミⅠを履修しておくこと										
授業の方法と進め方	基本的に、各自でまとめた論文に対し、質疑応答をする形式ですすめる。										
授業計画【第1回】	オリエンテーション（今後の研究のやり方についての確認等）										
授業計画【第2回】	研究の経過報告及び質疑応答①										
授業計画【第3回】	研究の経過報告及び質疑応答②										
授業計画【第4回】	研究の経過報告及び質疑応答③										
授業計画【第5回】	研究の経過報告及び質疑応答④										
授業計画【第6回】	研究の経過報告及び質疑応答⑤										
授業計画【第7回】	研究の経過報告及び質疑応答⑥										
授業計画【第8回】	中間発表①										
授業計画【第9回】	中間発表②										
授業計画【第10回】	卒業論文の検討①										
授業計画【第11回】	卒業論文の検討②										

授業計画 【第12回】	卒業論文の検討③
授業計画 【第13回】	ゼミ内卒業論文発表会
授業計画 【第14回】	卒業論文発表会①
授業計画 【第15回】	卒業論文発表会②
授業の到達目標	3年次までに身につけた事実に即して自発的に探究する力を用い、自分で研究を進める力を養う。 研究の成果を卒業論文発表会で発表するプレゼンテーション能力を養う。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	先行研究に関する文献を読み、各自の研究の裏付けを科学的に行う。 各自で、研究方法、内容を考え、計画的に進めていく。
授業時間外の学習 【復習】	ゼミ担当教員やゼミの学生との質疑応答から、各自で研究を深めていく。 計画的に卒業論文の形式を整理し、まとめていく。
課題に対する フィードバック	質疑応答を通して評価・解説を行う。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組みや発表、計画的な研究の進め方、卒業論文のまとめ方、プレゼンテーションのあり方などを総合的に評価する。
テキスト	特になし
参考書	特になし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○		
担当教員名	西田 雅美								ICT活 用		
授業概要	本授業の目的は、自身の関心や問題意識から卒業研究テーマを設定し、卒業研究を行うための方法を習得することである。										
関連する科目	「子ども教育専門ゼミⅠ」を事前に履修しておくこと。同時に「卒業研究」を履修すること										
授業の方法と進め方	毎回の授業にて、演習形式の授業を展開する。一回の授業構成は以下の通りである。授業の前半は、各自の研究課題に関して発表を行う。後半は、発表内容に対して議論を行い、学びを深めるとともに、自身の問題意識について検討する。										
授業計画【第1回】	オリエンテーション 専門ゼミⅡで学ぶ意義、卒業論文執筆に向けた準備をする										
授業計画【第2回】	各自の問題意識の確認 専門ゼミⅠでの学んだ研究の問題点を現在の問題意識として整理する										
授業計画【第3回】	各自の問題関心に基づいたテーマの設定 各自の問題意識を研究の視点に発展させ、卒業研究のテーマを設定する										
授業計画【第4回】	文献・先行研究の収集 研究方法を考えながら文献等を収集する										
授業計画【第5回】	文献・先行研究の整理 設定したテーマに関連する論文や著書を収集し、整理する										
授業計画【第6回】	各自の問題意識に基づいた先行研究・文献の報告と質疑応答① プレゼンテーションを行い、メンバー間で質疑応答を行う										
授業計画【第7回】	各自の問題意識に基づいた先行研究・文献の報告と質疑応答② テーマに応じた研究方法を決める										
授業計画【第8回】	各自の問題意識に基づいた先行研究・文献の報告と質疑応答③ 抄録の作成・研究の背景・目的などの章立てなどを通して全体像を整理する										
授業計画【第9回】	振り返りと中間報告 先行研究を検証したものをまとめ、中間発表会で発表する										
授業計画【第10回】	研究課題の絞り込み 研究課題の総括、絞り込みをする										
授業計画【第11回】	研究課題の明確化 各論の整理とともに研究課題を明確にし、今後の文献研究の計画を立案する										

授業計画 【第12回】	個別研究指導① 研究の背景・目的・方法・考察について整理する。調査研究のデータ分析・整理を行う
授業計画 【第13回】	個別研究指導② 個別の研究テーマに応じたレポート作成方法、調査データの分析方法・発表方法を学ぶ
授業計画 【第14回】	報告会① 卒業研究審査会にて発表する。研究内容を抄録とデータにまとめ、質疑・応答により内容を深める
授業計画 【第15回】	報告会② 卒業研究審査会における質疑、副査からの指導・助言に基づき加筆・修正を行う
授業の到達目標	1. 教育専門ゼミ I で深めた問題意識を学術的に整理し、理論的思考を高める 2. 研究の基礎へと結びつけるための討論や発表能力を習得する
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学習 【予習】	各自のテーマに関する文献やデータを収集する。卒業研究のためのレポート発表、論文の書き方や研究方法について学ぶ (40分程度)
授業時間外の学習 【復習】	内容を振り返り、メンバーと意見交換する (40分程度)
課題に対する フィードバック	各自の発表後に評価を行う
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 授業への積極的な取り組み (70点) 2) 課題提出 (30点)
テキスト	なし
参考書	必要に応じて適宜紹介する
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	講義		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦							ICT活 用	
授業概要	<p>この授業の目的は、現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助に関する文献を学生自身が収集し、内容を理解し、発表・討論を行うことである。</p> <p>専門ゼミⅠで習得したフィールドワークによる調査・研究手法をもとにして4年次に取り組む卒業研究において、必要となるテーマに関する基礎的文献を各自紹介する。論文から専門知識を深めるとともに、論文の構成、統計的手法についても習得することを目指す。</p>								
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠ、入門ゼミ、プレゼミ、卒業研究								
授業の方法と進め方	<p>アクティブラーニング型授業を展開する。学生自身が専門ゼミⅠで学んだ問題意識や課題とするテーマについて、より深く考察するための探究能力を高める。また、ソーシャルワーク理論とスキルの学びを深めるために事例検討やフィールドワークを通じ、理論知を実践に関連付けながら理解する。</p> <p>卒業研究のためのテーマ設定、研究方法の明確化につなげていきます。</p>								
授業計画【第1回】	オリエンテーション 卒業研究のスケジュール確認、プレ調査、研究計画の立案指導。								
授業計画【第2回】	各自の問題関心の所在、背景の確認をふまえ研究テーマを論考する。								
授業計画【第3回】	各自の問題関心に基づいたテーマの設定 の視座へと発展させ、卒業研究のテーマ設定をする。 研究方法に応じたツールの確認、対象の検討を併せて検討する。							各自の問題意識を研究	
授業計画【第4回】	文献・先行研究の収集。 各自の研究テーマに応じた先行研究・公的データ等資料の整理を行う。								
授業計画【第5回】	文献・先行研究の整理 テーマに関連する論文・著書・法制度に関連する資料を収集し総論と各論の整理をします。							設定した	
授業計画【第6回】	各自の問題意識に基づいた文献の報告と質疑応答① メンバー間での発表、質疑を展開し、自らの問題意識を再考する。								
授業計画【第7回】	各自の問題意識に基づいたテーマ・研究目的・方法等の報告と質疑応答② 再度、研究目的に応じた論点の整理と研究方法・対象を確認する。								
授業計画【第8回】	ふりかえりと中間報告 ビューしたものをレポートにしゼミ内で発表し、質疑応答やディスカッションをし学びを深めます。							文献し	
授業計画【第9回】	研究計画発表 整理とともに研究課題を明確にし、今後の文献研修やフィールドワークの計画を立案します。さらに個別の研究テーマに応じた研究方法の整理、具体的展開を学ぶ。							各論の整	
授業計画【第10回】	個別研究指導① 中間発表会資料作成についてのアカデミックスキル、プレゼンテーション指導。								
授業計画【第11回】	個別研究指導② テーマに応じたレポートの書き方、調査データの分析、プレゼンテーションの方法等 を確認し、相互理解を深める。 中間発表会における教員、参加者からの意見を整理し、改善につなげる。							個別の研究	

授業計画 【第12回】	報告会① 個別研究指導、中間発表会での学びを整理し、メンバー間で意見交換を行う。
授業計画 【第13回】	報告会② の研究内容を抄録とパワーポイントデータにまとめプレゼンテーションを行い質疑応答により内容を深めます。 報告会①
授業計画 【第14回】	卒業研究論文の推敲を重ね、審査会に向けての抄録。発表データの作成を行う。
授業計画 【第15回】	副査教員に卒業研究論文執筆の進捗状況を報告し、指導を受ける。 ゼミ教員からの指導、メンバー間での議論をふまえ推敲を重ねる。
授業の到達目標	1. 子ども教育専門ゼミIで深めた問題意識を学術的に整理し、理論的思考力を高める。 2. 専門ゼミIで習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指す。 3. ボランティアやフィールドワーク等での体験知を深め、研究の基礎へと結びつけるための討論や発表能力を習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	各自の研究の進捗状況に応じて指示を行う。
授業時間外の学習 【復習】	各自の研究の進捗状況に応じて指示を行う。
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説する。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。
テキスト	特に定めず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	白井利明・高崎一郎 著 「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房 田中恭子 編 「よくわかる学びの技法」第2版 ミネルヴァ書房
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2023年度	開講キャンパス		開講キャンパス	開設学科		子ども教育学科				
科目名称		子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態		演習			
科目コード		750115	単位数		2単位	配当学年		4	実務経験教員		○	
担当教員名		宮内 孝								ICT活用		○
授業概要		<p>この授業は、研究に関する手法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力の向上やクリティカル思考の習得を目指していくなかで課題探究能力の向上をはかるとともに円滑に卒業研究に取り組めるようにします。</p> <p>子どもの運動に関する課題について、文献や資料を収集してまとめたり、実践をしたりして、その結果を発表・討論を行います。授業者は、小学校教諭として体育授業に取り組んできました。この実践を通して得た知見を、学生が設定する子どもの運動に関する課題解決指導に活用して、本授業の学修が深められるようにします。</p>										
関連する科目		子ども教育専門ゼミⅠ										
授業の方法と進め方		テーマにそって、討論をしたり実技をしたりしながら、主体的に課題解決に取り組むようにします。また、チャレンジ運動教室での指導計画・実践・振り返りと関連付けながら、授業を行います。										
授業計画【第1回】		1. 運動指導実践例 器械運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。										
授業計画【第2回】		2. 運動指導実践例 ボール運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。										
授業計画【第3回】		3. 運動指導実践例 陸上運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。										
授業計画【第4回】		4. 運動指導実践例 からだ作り運動・水泳 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。										
授業計画【第5回】		5. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第6回】		6. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第7回】		7. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第8回】		8. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第9回】		9. 運動指導実践上の課題解決 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第10回】		10. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										
授業計画【第11回】		11. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。										

授業計画 【第12回】	12. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第13回】	13. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第14回】	14. 運動指導実践上の課題 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第15回】	15. 子どもの動きのつまずきと運動指導実践 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業の到達目標	1. 専門ゼミ I で習得した研究の基盤となる力をさらに向上させながら、レポート作成やグループディスカッションができる。 2. クリティカルな思考を高め、専門的知識を身に付ける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学習 【予習】	各自のゼミ研究に取り組むための文献・先行実践についてレジュメ・発表のためのプレゼンを作成する。
授業時間外の学習 【復習】	授業後は、自己の学びをレポートにまとめる。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	レジュメ 30点 レポート30点 プレゼンテーション 40点
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	金子明友 「教師のための運動学」 大修館書店2003 (2000円+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	演習		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブラーニング	○
担当教員名	早川 純子							ICT活用	
授業概要	<p>この演習では、これまでのゼミで習得した研究手法をもとに、子ども教育専門ゼミⅠで扱ったテーマについて、より専門的な文献、より具体的な調査と分析によって研究を深めることを目的とする。</p> <p>各自、一つの研究プロセスの中で個々の考察をまとめ、発表報告し、その際のディスカッションを通じて研究内容を吟味していく。卒業研究につながるように、テーマ・問題設定・先行論文調査・学問的意義・章構成・各章の内容などの研究計画を綿密に構成していく。</p> <p>また、積極的・主体的な地域交流を体験し、地域の課題解決や活性化に貢献する意識と態度を養う。</p>								
関連する科目	1年次に「子ども教育入門ゼミ」、2年次に「子ども教育プレゼミ」、また3年次には「子ども教育ゼミⅠ」を履修しておくこと。								
授業の方法と進め方	<p>各回のテーマに関する課題の評価及び指導を「演習形式」で行う。</p> <p>毎回、課題の提示・発表・提出を行い、参加者全員でのディスカッションを行う。</p> <p>適宜、学科主催の音楽会「うたごえ広場」に参加し、運営を通して地域交流を行う。</p>								
授業計画【第1回】	<p>年間研究フロー発表（執筆スケジュール）</p> <p>：自分の研究計画に対してゼミ内でアドバイスやフィードバックをうけることで、より良い研究計画を作成する</p>								
授業計画【第2回】	<p>先行文献レビュー①</p> <p>：関心のある研究分野について過去の研究や知見を把握する</p>								
授業計画【第3回】	<p>地域交流（「うたごえ広場」運営）①</p> <p>：音楽活動を通じた地域の活性化や観光振興を考える</p>								
授業計画【第4回】	<p>先行文献レビュー②</p> <p>：当該分野の知識や研究の進展状況、未解決の問題点や課題などを理解する</p>								
授業計画【第5回】	<p>地域交流（「うたごえ広場」運営）②</p> <p>：地域の文化や人々のつながりを深める</p>								
授業計画【第6回】	<p>実地調査計画案発表</p> <p>：調査の目的やテーマを明確にし、必要な資料や機材、人員などを手配する；調査手順や調査方法、調査対象となる場所や人物、調査の期間やスケジュールを検討する；調査を実施する前には、安全面や倫理面も考慮し、事前に適切な対策を講じる；調査結果を分析・解釈するための方法やツールも検討しておく</p>								
授業計画【第7回】	<p>地域交流（「うたごえ広場」運営）③</p> <p>：音楽活動を通して地域住民のコミュニケーションや交流を促進する</p>								
授業計画【第8回】	<p>卒業研究中間発表準備</p> <p>：研究の進捗状況の確認、スライド作成、発表練習を行う</p>								
授業計画【第9回】	<p>卒業研究中間発表</p> <p>：卒業研究の進捗状況や結果を発表することで、自分の研究テーマや研究目的を再確認し、研究に対するモチベーションを維持する</p>								
授業計画【第10回】	<p>実地調査あるいは研究実践①</p> <p>：研究対象とする現場で直接観察・体験・収集したデータを基に、問題の把握や課題解決のための情報を収集する</p>								
授業計画【第11回】	<p>地域交流（「うたごえ広場」運営）④</p> <p>：歌唱活動を通して地域の人々の生活や健康に寄与する</p>								

授業計画 【第12回】	実地調査あるいは研究実践② : 調査結果から得られたデータを分析し、問題点や改善策を明確にする
授業計画 【第13回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）⑤ : 音楽会を通じて地域住民の交流を促し地域を盛り上げることで、地域の活性化につなげる
授業計画 【第14回】	卒業研究審査会準備 : 研究成果の確認、スライド作成、発表練習を行う
授業計画 【第15回】	卒業研究審査会 : 審査会での発表や議論を通じて研究成果の確認を行い、審査者や学生からの質問や批評を受けることで、自己批判力や批判的思考力を向上させる
授業の到達目標	専門ゼミ I で習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指す。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	発表の際は、レジメを作成するだけでなく質疑応答にも十分に対応するために、対象論文を入念に読み込み理解して臨む必要がある。準備には十分な時間を確保すること。(2時間程度)
授業時間外の学習 【復習】	研究の基礎となる専門的な知識を習得したり、研究方法やデータ分析技術などの専門的なスキルも身につけるために、その分野に関する参考文献を調べ研究に必要な知識を習得すること。(2時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	参加態度：60%、発表：40%
テキスト	レビューする先行文献は各自で準備する。
参考書	随時提示する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	後藤 吉道							ICT活 用	○	
授業概要	<p>自らの関心や問題意識から卒業研究テーマを設定し、卒業研究を行うための方法を習得します。 ①研究テーマ設定、②先行研究の収集・整理、③文献・テキストの講読 ③レポート作成、④発表・質疑応答 を通して、研究テーマに関する知見を深め、研究方法について学びます。</p>									
関連する科目	「子ども教育専門ゼミⅠ」「卒業研究」									
授業の方法と進め方	①自分の関心・問題意識を明らかにする。 ②先行研究の収集と整理を行う。 ③人間形成論に関わる文献を講読し、その内容を正確に理解しレポートにまとめる。 ④レポートの発表を通して、自身の研究内容を著者の見解と比較・検討する。									
授業計画【第1回】	第 1 回：オリエンテーション									
授業計画【第2回】	第 2 回：各自の関心・問題意識を明らかにする。(1)									
授業計画【第3回】	第 3 回：各自の関心・問題意識を明らかにする。(2)									
授業計画【第4回】	第 4 回：各自の関心・問題意識を明らかにする。(3)									
授業計画【第5回】	第 5 回：先行研究の収集・整理(1)									
授業計画【第6回】	第 6 回：先行研究の収集・整理(2)									
授業計画【第7回】	第 7 回：先行研究の収集・整理(3)									
授業計画【第8回】	第 8 回：各自の関心・問題意識の再確認と修正(1)									
授業計画【第9回】	第 9 回：各自の関心・問題意識の再確認と修正(2)									
授業計画【第10回】	第 10 回：文献の収集とレポートの検討(1)									
授業計画【第11回】	第 11 回：文献の収集とレポートの検討(2)									

授業計画 【第12回】	第12回：文献の収集とレポートの検討(3)
授業計画 【第13回】	第13回：文献の収集とレポートの検討(4)
授業計画 【第14回】	第14回：各自の課題に沿った報告と質疑応答(1)
授業計画 【第15回】	第15回：各自の課題に沿った報告と質疑応答(2)
授業の到達目標	1. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 2. 研究テーマを設定し、正確にテキストの読解ができる。 3. レポート作成、発表と討論の方法について理解することができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	自分の関心・問題意識はどこにあるのかを常に意識しながら文献を探し、読む。
授業時間外の学習 【復習】	ゼミの内容をふり返り、課題に対する探究を深める。
課題に対する フィードバック	毎回の授業でコメントします。
評価方法・基準	①発表資料（レポート） ②参加態度（発言）
テキスト	なし
参考書	それぞれのテーマにあわせて適宜紹介します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	演習			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	園田 博一							ICT活 用	○	
授業概要	<p>専門ゼミⅠの研究の方向性を再検討し、確認をしながら最終的な具体的な取り組み内容を吟味する。課題研究テーマを探っていく。これまでの取り組みを重視し、さらなる分析、考察をしていく。個々の実践課題と、制作研究を進めていく。ゼミ活動の集大成としての課題を共有し、資料を整理し、制作研究と研究論文を作成する。</p>									
関連する科目	教科教育法（図画工作）、保育内容指導法（造形表現）、図画工作演習、子どもと手作り遊び									
授業の方法と進め方	<p>各自の研究の目的や方法について考えを進め、文献研究、資料収集を行う。テーマに基づいた理論的研究を深めていく。造形表現と子どもの発達段階についていろいろな角度から検討していく。卒業研究に向けた各自のテーマを深堀りする。ものづくりの背景や意味や歴史も研究の対象とする。</p>									
授業計画【第1回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（1） これまでのゼミ活動を振り返り、卒論作成の流れを確認する。									
授業計画【第2回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（2） テーマに沿った、文献調査や先行研究の収集状況を把握する。									
授業計画【第3回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（1） 論文執筆へのアウトラインを描く。									
授業計画【第4回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（2） 章立てを確認し、執筆の構想を練る。									
授業計画【第5回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（3） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。									
授業計画【第6回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（4） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。									
授業計画【第7回】	中間発表に向けて 個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（1）									
授業計画【第8回】	中間発表に向けて 個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（2）									
授業計画【第9回】	研究報告書（卒論）の作成計画、制作（1） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。									
授業計画【第10回】	研究報告書（卒論）の作成計画、制作（2） 執筆状況の点検と、進捗状況を確認する。									
授業計画【第11回】	ゼミ内研究発表準備（1） 中間発表									

授業計画 【第12回】	ゼミ内研究発表準備（2） 中間発表
授業計画 【第13回】	ゼミ研究発表（1） 各自の研究を発表する。資料、画像、参考文献等の整理を行う。
授業計画 【第14回】	ゼミ研究発表（2）最終段階 各自の研究を発表する。
授業計画 【第15回】	ゼミ活動（専門ゼミⅡ）の総括 卒論提出（冊子）
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に対する積極性があり、主体的に参加する。 ・ 課題を発表、討論することで学習を共有する。 ・ 卒業研究に向けての研究構想を具体的に作成し、計画を推し進める。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	既習の内容を総動員し取り組む。（約1時間）
授業時間外の学習 【復習】	卒業研究と連結し総合的に取り組むことができるようにする。（約1時間）
課題に対する フィードバック	専門性や社会性、客観性を注視し、助言を行う。
評価方法・基準	参加の姿勢、ゼミ構成員であることの意識、課題の成果により総合的に判断する。 研究成果として論部形式での提出を求める。
テキスト	自分の研究分野を掘り下げるためのテキストを収集する。
参考書	参考文献、引用文献資料等、適宜紹介しながら研究推進する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科					
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	河野 康男								ICT活 用	
授業概要	卒業研究が十分に達成できるように文献を用いた購読を行う。対象とする文献は、卒業研究をサポートする内容となるため年によって異なる。									
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠを事前に受講しておくことが望ましい。									
授業の方法と進め方	文献調査から課題を見つけ、グループディスカッションを積み重ねて解決方法を検討する。									
授業計画【第1回】	購読文献の決定 購読文献を決定し、文献購読の仕方について理解する。									
授業計画【第2回】	文献購読（1） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（1）									
授業計画【第3回】	文献購読（2） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（2）									
授業計画【第4回】	文献購読（3） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（3）									
授業計画【第5回】	文献購読（4） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（4）									
授業計画【第6回】	文献購読（5） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（5）									
授業計画【第7回】	文献購読（6） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（6）									
授業計画【第8回】	文献購読（7） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（7）									
授業計画【第9回】	文献購読（8） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（8）									
授業計画【第10回】	文献購読（9） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（9）									
授業計画【第11回】	文献購読（10） 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。（10）									

授業計画 【第12回】	文献購読 (11) 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。(11)
授業計画 【第13回】	文献購読 (12) 疑問、共感、興味、学び等の意見交換を行い、内容をより深く理解し、課題解決の方法を知る。(12)
授業計画 【第14回】	まとめと報告会 (1) 受講での学びについて報告をする。(1)
授業計画 【第15回】	まとめと報告会 (2) 受講での学びについて報告をする。(2)
授業の到達目標	卒業研究が十分に達成できるように文献を読みこなし、理解する力をつける。【論理的指導力】【知識・理解力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学習 【予習】	次回の購読内容を読み疑問、共感、興味、学び等の箇所に線を引き、読後の感想を出せるようにしておく。(1時間)
授業時間外の学習 【復習】	受講後に、自らの学びをノートにまとめる。
課題に対する フィードバック	段階的なレポートを評価し、アドバイスする。
評価方法・基準	輪番で発表するので、その結果に基づいて評価する。
テキスト	第1回において指定する。
参考書	必要に応じて、関連文献をその都度紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	授業形態	演習	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	川田 耕太郎								ICT活 用	○
授業概要	<p>本授業では、特別支援教育を専門的に研究していくための発展的な力を養うことを目的とする。 文献や資料の収集や整理などの情報活用方法を学び、活用する力を養う。 学生自らが設定した研究テーマに沿った調査及び研究を進めて探求し、論文にまとめる。</p>									
関連する科目	事前に、子ども教育プレゼミを履修しておくこと。									
授業の方法と進め方	基本的には文献のまとめや各自でまとめた論文に対する質疑応答を行う形式で進める。									
授業計画【第1回】	オリエンテーション 自己紹介及びゼミの進め方の確認									
授業計画【第2回】	各自の研究テーマの確認及び報告 研究テーマと研究計画について報告し、質疑応答を行う。									
授業計画【第3回】	課題文献の検討 研究テーマと研究計画について報告し、質疑応答を行う。									
授業計画【第4回】	研究の経過報告及び質疑応答 各自の研究の進捗状況、経過報告及び質疑応答を行う。									
授業計画【第5回】	研究の経過報告及び質疑応答 各自の研究の進捗状況、経過報告及び質疑応答を行う。									
授業計画【第6回】	研究の経過報告及び質疑応答 各自の研究の進捗状況、経過報告及び質疑応答を行う。									
授業計画【第7回】	研究の経過報告及び質疑応答 各自の研究の進捗状況、経過報告及び質疑応答を行う。									
授業計画【第8回】	中間まとめ 研究テーマや方法、結果などについてまとめて発表する。									
授業計画【第9回】	中間まとめ 研究テーマや方法、結果などについてまとめて発表する。									
授業計画【第10回】	卒業論文の検討 これまでの取組を振り返りつつ、自分の考えをより明確にしながら論文を作成する。									
授業計画【第11回】	卒業論文の検討 これまでの取組を振り返りつつ、自分の考えをより明確にしながら論文を作成する。									

授業計画 【第12回】	卒業論文の検討 これまでの取組を振り返りつつ、自分の考えをより明確にしながら論文を作成する。
授業計画 【第13回】	ゼミ内卒業論文発表会 自分の研究が他者に伝わるようプレゼンテーションソフトを用いて発表を行う。
授業計画 【第14回】	卒業論文発表会 プレゼンテーションソフトで他者に分かりやすく伝え、質疑応答を行い考えを深化させる。
授業計画 【第15回】	卒業論文発表会 プレゼンテーションソフトで他者に分かりやすく伝え、質疑応答を行い考えを深化させる。
授業の到達目標	1. 設定した研究テーマに沿って文献や先行研究などの情報を収集し、自分の考えをもつことができる。 2. 自分の考えを文章化したり図表を用いたりしながら、他者に分かりやすく伝えることができる。 3. 他者の考えを聞いたり、自分の意見を話したりして、新たな考えをもつことができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	先行文献を読み、各自の研究の意義を考え、価値づけを行う。 研究テーマや研究方法、研究内容を考え計画的に進めていく。
授業時間外の学習 【復習】	他者との意見交換、アドバイス等を踏まえ、研究テーマ、研究内容、研究方法、発表の技術等について振り返り、改善する。
課題に対する フィードバック	質疑応答を通して評価・解説を行う。
評価方法・基準	文献・情報収集への取組や発表、意見交換、計画的な研究の進め方、自分の考えの文章化、プレゼンテーションソフトの効果的な使用などを総合的に評価する。
テキスト	特に使用しない。
参考書	特に使用しない。
備考	15年間、特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）、3年間、小学校に勤務。また、4年間、鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課において研究主事兼指導主事、4年間、鹿児島市教育委員会において特別支援教育担当指導主事として勤務した。